

Oita Yufumi

**VOL.11**

Hospital

発行 / 2014年4月

大分ゆふみ

病院たより

 大分ゆふみ病院



## 院長ごあいさつ

### 「専門的緩和ケアの提供施設として」

院長 一万田 正彦



緩和ケア・ホスピスケアというと、緩和ケア病棟やホスピス病棟で行なわれるというイメージが強いと思われます。国の新たながん対策の目標として、「すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上」が掲げられています。この目標を実現するとなると、とても緩和ケア病棟やホスピス病棟だけの対応では追いつきません。そのため、一般の病院や診療所によっても、緩和ケア・ホスピスケアが提供できるような体制の整備が進んでいます。

それでは、緩和ケア病棟やホスピス病棟の役割は、これからどうなっていくと思われますか？大分ゆふみ病院としては、専門的緩和ケアの提供施設として、充実させていくことだと考えています。

次に専門的緩和ケアの提供施設として、何が求められるのでしょうか？まず一つ目には、標準的な治療・ケアを行なっているにもかかわらず、苦痛症状や辛さがあるときの対応です。専門的な知識を活かして、より細やかなその人に合った手段を用い、苦痛症状や辛さを取ることに全力を尽くします。二つ目には、患者さんご本人だけでなくそのご家族の心情へも十分な配慮をすることです。三つ目は、医療スタッフが、患者さん・ご家族に対して、本気で寄り添う心を持って接することです。緩和ケア病棟やホスピス病棟では、一般病院に比べて、余裕をもって患者さんペースで接することができるため、以上のような対応を行なうことができます。

これらの専門的緩和ケアを提供していくためには、私たち医療スタッフの意識や質を向上させなくてはなりません。そのために、専門的知識を得るために学び、また人と人のコミュニケーションを十分に図るために気遣いをし、患者さんやご家族に寄り添う心を養っていく必要があると考えております。私たち大分ゆふみ病院は、がんで苦しむ、患者さん・ご家族にとって「ここに来て良かった」と言ってもらえる病院を目指しています。



外観



ラウンジ



部屋（全室個室）

## ご家族からの手紙

昨年、当院に入院されていた患者さんのお父様より、退院された息子さんに送った手紙を紹介させていただきます。



洋、お前はほんとに凄い。激痛と高熱に耐え、迫り来る死の恐怖と戦いながら、それを少しも表に出さず、いつも明るく振る舞った。その精神力にただただ驚くばかりだ。凄い、ほんとに凄い。お前は強いばかりでなく、また誰にも優しくかった。過酷な状態にあっても、弱音を吐かず、愚痴をこぼさず、明るく振る舞い、ときには冗談を言って周囲を和ませた。そして、周囲への気遣いと感謝を忘れなかった。看護師さんには、その都度「すみません」「お願いします」「有り難うございました」と声をかけ、その言葉に実があった。お見舞いの方々に対しても誠心対応に努めていた。

お前の心の強さは今回ばかりでなく、常々思うところがあった。23年前、お前は交通事故を起こし、目に大きなハンディを負った。そのハンディがお前の人生を大きく変えた。悔やんでも悔やみきれない過失であった。この23年間、日々の生活の上で、仕事の面で、あるいは人付き合いで、辛さと苦しさや悔しさと情けなさをどれほど味わわれたことが、想像に難くない。しかし、少しも表に出さず、明るく振る舞ってきた。これまで、そのことによる愚痴や泣き言をただの一度も聞いたことがなかった。その意志の強さには驚くばかりであった。我が息子ながら天晴れであり、凄いと思う。愚痴をこぼさず、泣き言を言わなかったのは、私たちへの気遣いであり、お前流の親孝行だったのであろう。ありがとう。大分合同新聞の7月12日の夕刊のコラム「いのちのことば」に次のような記事があった。ある高名なホスピス医の話を紹介し、人の最期の1ヶ月には、それまでの人生が凝縮されるという。

しっかり生きてきた人はしっかり亡くなり、不平不満を言いながら生きてきた人は医療者に不平不満を言いながら亡くなっていく。それゆえ、「良き死を死すためには、良き生を生きる必要がある」という。そして、良き生というのは、「感謝」や「ユーモア」により支えられているようだ。周りの人たちに感謝をしながら生きてきた人は感謝に満ちた死を迎える。一方、ユーモアのセンスを伺わせる患者は、悲しみを吹き飛ばすような笑いを作り出し、周囲との最後のコミュニケーションをより豊かなものにする。「人は生きてきたように死んでいく」というのである。

この連載コラムは、医療ジャーナリストの林 義人氏によるものだが、これを読んだとき、洋のことが思い出され、一瞬、洋のことでは？などと有り得ない想像までしてしまった。後日、我が家を訪れた修おじさんが、このコラムを読んだとき、私と同じ思いを持ったと語っていた。嬉しいじゃないか。修おじさんもお前のことを認めていてくれたのだ。ありがたいな。

お前の最期は、林氏が言うとおりの感謝に満ちたものであった。51年の人生の最期を感謝の念で締めくくった。見事な最期だったと思う。この林氏の文は、お前の優しさ、心の強さ、そして確かさを見事に証明してくれた。洋、よかったな。私はお前が誇らしい。ありがとう。安らかに眠れよ。

# 四季折々

当院では、各月ごとにさまざまなイベントを行い、患者さんや家族と共に季節を感じながら楽しい時間を過ごしています。

## 春

鶯の声やたくさんの花々に囲まれる暖かい春、  
中庭を散歩しながら花を眺める心やさしい時間があります。



メジロンも一緒に豆撒きした「節分」



二人だけの「ひな祭り」



大好きな花に囲まれた中庭で



にぎやかな「花祭り」

## 夏

豊かな木々が揺れる爽やかな夏、  
木陰の散歩や夕涼みなど穏やかなひとときを過ごします。



楽しい「夏祭り」



きれいな花嫁姿を見せてくれた幸せな一日



緑あふれる院内の散歩道



# 秋

空気が澄みわたる清々しい秋、  
中庭の木々も鮮やかに色づき心地いい秋風が吹き抜けます。



「お月見会」  
可愛いウサギも登場



「竹灯り」



暖炉のあるラウンジ



心地よい秋風の中で



「竹灯り」

# 冬

真っ白な雪に包まれる凜とした冬、  
音楽会やお餅つきなど笑顔が広がるあたたかい時間です。



真っ白に染まった院内

毎年恒例の「餅つき大会」



お正月



雪を見て感激



一緒に歌って楽しんだ「クリスマス会」

## ホスピスボランティアの役割

大分ゆふみ病院では、現在、約40名のボランティアスタッフが活動しています。月曜日から土曜日までそれぞれのボランティアが出来ることを献身的に行ない、患者さんにご家族に寄り添いながら、「社会の風を送り込む」重要な役割を担い、スタッフの一員としてケアを行ないます。主な活動は、ラウンジでの喫茶の提供やハンドマッサージ、折り紙、パッチワークキルト、ピアノ演奏、園芸、院内行事への参加など、特技を活かした様々な活動を行なっています。院内に癒しの空間を作るボランティアスタッフは、これからも患者さんにご家族に和みの“とき”をお届けします。

### 当院で活躍するボランティアの方々



ピアノ演奏



押し花



園芸



談話



ハンドマッサージ



折り紙

写真は、いつも陰ながら支えてくれるボランティアの方たちの姿です。

ボランティア活動の姿は、患者さんだけでなく患者さんのご家族、また病院スタッフも元気づけられていて院内を明るく活気づけてくれます。



ボランティアの皆さんによるさまざまな作品。左から人形作り・折り紙・パッチワークキルト・折り紙

## ■ 研修・施設見学受入れ状況 (2013.4.1~2014.3.31)

### 研修

- 卒後臨床研修医 17名 (大分大学医学部、大分県立病院)  
 看護師研修 11名 (大分県看護協会)  
 看護学生研修 29名 (大分大学医学部看護学科3年・4年次生)  
 薬学生研修 10名 (第一薬科大学、九州保健福祉大学、崇城大学、長崎国際大学)

### 施設見学 78名 (ホスピスセミナー参加者含)

看護師 53名、薬剤師 6名、社会福祉士 10名、管理栄養士 1名、介護支援専門員 4名、介護士 1名、その他医療関係者 3名

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分医療センター、新別府病院、国東市民病院、中津市民病院、済生会日田病院、天心堂へつぎ病院他

※入院患者さん、ご家族ともに、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力をお願いいたします。

## ■ ホスピス診療記録 (2013.4.1~2014.3.31)

### ■ 入院患者数

155名 (男 89名、女 66名)

### ■ 平均年齢

73歳

### ■ 住所分布

大分市 102名、大分市外 53名  
(大分市外:別府市 16名、由布市 5名、竹田市 5名、臼杵市 4名、豊後大野市 3名、県外 4名など)

### ■ 紹介元病院

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分医療センター、やまおか在宅クリニック、大分中村病院、井野辺病院、有田胃腸病院、うえお乳腺外科、大分記念病院、別府医療センター、新別府病院、吉川医院、大分市医師会立アルメイダ病院、臼杵市医師会立コスモス病院、小倉医療センター、済生会福岡総合病院など

### 入院までの流れ

#### ① 入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

#### ② 医師による診察面談

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。  
 ※紹介状とX線フィルムなどを持参していただけます。

#### ③ 入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー(相談員)によって行われます。

#### ④ 会議の入院決定の連絡

患者さんまたはご家族に入院の適否、日程について連絡をします。

#### ⑤ 入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り、入院の調整を行ないます。

### 病院理念

**大分ゆふみ病院は  
『今を生きる』患者と家族を支えます。**

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

## ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、  
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

### ■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象。
- 患者と家族、またはその何れかが入院を希望していることが原則です。
- 入院時に、「病名・病状」について理解していることが望ましく、理解していない場合には、患者・家族の求めに応じて適切な説明が行われます。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

### ■がん疼痛緩和外来 [要予約]

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも直接外来受診や電話相談に応じます。専門の緩和治療医が対応いたします。お気軽にご連絡ください。 ※要予約

### ■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、訪問診療で症状コントロールすることも可能です。必要に応じて、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

### ■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

### ■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://www2.ocn.ne.jp/~yufumi)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎ 097-548-7272

電話受付時間 / 月～金曜日 AM9:30～PM4:30 (祝日は除く)

### 交通のご案内

- バスをご利用の場合  
大分駅より大分交通<机張原>行き、  
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合  
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分